

マントファスマ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。

出典検索?: "マントファスマ" (https://www.google.co.jp/search?hl=ja&as_eq=wikipedia&q=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22&num=50) – ニュース (<https://www.google.co.jp/search?hl=ja&q=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22&tbnm=nws>)・書籍 (<https://www.google.co.jp/search?hl=ja&tbs=bks:1&q=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22>)・スカラー (<https://scholar.google.co.jp/scholar?num=100&hl=ja&q=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22>)・CiNii (<https://ci.nii.ac.jp/search?lang=ja&q=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22&range=2&count=200&sortorder=1&type=0>)・J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/result/global/-char/ja?globalSearchKey=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22>)・NDL (https://iss.ndl.go.jp/books?op_id=1&locale=ja&any=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22&display=&ar=4e1f)・dlib.jp (<https://dlib.jp/?q=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22>)・ジャパンサーチ (<https://jpsrch.go.jp/csearch/jps-cross?csid=jps-cross&keyword=%22%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%B9%E3%83%9E%22>)・TWL (<https://wikipedialibrary.wmflabs.org/partners/>) (2021年7月)

マントファスマ、またはカクトアルキは、節足動物門 昆虫綱マントファスマ目（またはカクトアルキ目、踵行目）に属する昆虫の総称。

2001年に、ドイツのOliver Zomproらは、琥珀の中から発見した化石個体を調べて、最初のマントファスマ類の昆虫を新種として発表した。その後、同じ特徴を持つ昆虫が、20世紀初頭に生きている状態で採集され、既にフンボルト博物館に未同定ナナフシ類の標本として保存されていることがわかった。それらの昆虫の特徴は、従来のどのグループとも異なっていたことから、マントファスマ目 (Mantophasmatodea Klass, Zompro, Kristensen and Adis, 2002) が、昆虫綱に属する31番目の目（もく）として、2002年に新たに記載された。

ガロアムシ目（非翅目）と近縁である。それぞれをガロアムシ亜目 (Grylloblattodea)・マントファスマ亜目とし、あわせて非翅目 (Notoptera) とすることがある。

目次
<div><div>主な特徴</div><div>知られている種</div><div>現生種</div></div>

マントファスマ目
<div></div> <div>Mantophasma zephyra</div>
分類
界：動物界 Animalia
門：節足動物門 Arthropoda
綱：昆虫綱 Insecta
目：マントファスマ目
Mantophasmatodea
科
<div><div><div>■ マントファスマ科 Mantophasmatidae</div><div>■ タンザニオファスマ科 Tanzaniophasmatidae</div><div>■ アウストロファスマ科 Austrophasmatidae</div></div></div>

主な特徴

- 不完全変態をする昆虫で、体長は 2 cm ほど。肉食の昆虫である。
- 翅は退化し、形態はカマキリやナナフシに似ている。このことから、mantid（カマキリ）と phasmatid（ナナフシ）を組み合わせ、学名がマントファスマと名付けられた。
- つま先（跗節の先端部）を上げて踵（かかと、符節の基部）で歩く様に見える。このことから、カカトアルキという和名が付けられた。
- 腹部で止まっている木の幹を小刻みに叩くことにより、求愛や同種の別個体に対する威嚇をする。

知られている種

現在までに知られている種は3科8属。

- マントファスマ科 (Mantophasmatidae)
 - *Mantophasma* 属
 - *Sclerophasma* 属
- タンザニオファスマ科 (Tanzaniophasmatidae)
 - *Tanzaniophasma* 属
- アウストロファスマ科 (Austrophasmatidae)
 - *Austrophasma* 属
 - *Lobophasma* 属
 - *Helilobophasma* 属
 - *Karoophasma* 属
 - *Namaquaphasma* 属

現生種

熱帯アフリカ（タンザニア、ナミビア）に分布する。

- *Mantophasma subsolana* Klass, Zompro, Kristensen, and Adis, 2002
タンザニアに生息し、体は赤い小さな斑点で覆われている。
- *Mantophasma zephyra* Klass, Zompro, Kristensen, and Adis, 2002
ナミビアに生息し、体には赤い斑点はない。

- *Praedatophasma maraisi* Zompro and Adis, 2002

南ナミビアに生息。*Mantophasma* 属より大きな眼をもち、頭部が丸形なのが特徴である。

化石種

始新世のバルチック・アンバー（約4,500万年前の琥珀）から発見された。

- *Rhaptophasma kerneggeri* Zompro, 2001

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=マントファスマ&oldid=84830200>」から取得

最終更新 2021年8月2日 (月) 17:35 （日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。